

令和4年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 実施要項

1 目的 高等学校における校内授業実践研究を効果的に進めるための方法を実践的に習得し、組織的に授業改善を推進し、カリキュラム・マネジメントを実践できるリーダーを育成する。

2 対象 府立高等学校（岸和田市立産業高等学校の定時制の課程を含む）の教員

募集人数 40名

3 内容等

回	日時	内容	講師等
1	5月16日（月） 14:00～16:00	カリキュラム・マネジメントの重要性 －授業改善と連動させた学校経営の展開－ 学校全体で取り組む授業実践研究の基本的な考え方 －組織的な授業改善の意義とリーダーとしての役割－ 授業実践研究計画書の作成に向けて 〔講義・演習〕	京都大学大学院 准教授 石井 英真 大阪府教育センター 指導主事等
2	リアルタイム開催 6月20日（月） 14:00～16:00 提出締切：7月4日（火）	協働的・計画的に授業実践研究を進めるために －実践事例から学ぶ－ 各校における授業実践研究計画の改善と共有 －授業改善のPDCAサイクル－ 〔講義・演習〕	公立学校教員 大阪府教育センター 指導主事等
3	リアルタイム開催 10月17日（月） 14:00～16:00 提出締切：10月31日（月）	各校における授業実践研究の取組みの実際 －中間報告会－ －授業改善のCheck（評価）とAction（改善）－ 〔講義・発表・協議〕	大阪府教育センター 指導主事等
4	2月6日（月） 14:00～17:00	各校における授業実践研究の取組みの交流 －実践成果報告会－ 実践を引き継いでいくために －次年度に向けて－ 〔発表・協議・講義・演習〕	大阪府教育センター 指導主事等 京都大学大学院 准教授 石井 英真

※太字の時間帯は、通常の時間帯と異なるので注意してください。

4 会場 第1、4回

大阪府教育センター（大阪市住吉区菟田4丁目13番23号 電話06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m 近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m
--

第2、3回 所属校等

5 担当室 高等学校教育推進室

6 その他

- (1) 受付は30分前から。
- (2) 来所時には、所属名・名前の入った名札を着用すること。
- (3) 自家用自動車・バイク等は大阪府教育センターに駐車できません。
- (4) 事前に準備しておく事項があるので、シラバスを必ず確認しておくこと。
- (5) Web 開催（オンデマンド開催、リアルタイム開催）の場合、研修対応ポータルサイトの実施マニュアルを参照すること。

個別募集

令和4年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 シラバス

1 目的

高等学校における校内授業実践研究を効果的に進めるための方法を実践的に習得し、組織的に授業改善を推進し、カリキュラム・マネジメントを実践できるリーダーを育成する。

2 大阪府教員等育成指標の対象項目

OSAKA 教職 スタンダード	共通の指標														
	I			II			III			IV			V		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
第4期							○	○	○	○	○	○			
第3期							○	○	○	○	○	○			
第2期															
第1期															
第0期															

3 研修課題とねらい等

回	研修課題	ねらい	内容	準備物・事前課題
1	学校全体で取り組む授業実践研究の基本的な考え方 ー組織的な授業改善の意義とリーダーとしての役割ー	組織的な授業改善及び授業実践研究の意義を確認し、リーダーとして自らが果たすべき役割について理解する。	講義・演習により次のことを理解する。 ・カリキュラム・マネジメントとは ・新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントとは	事前課題 Google フォームによる講義動画視聴と事前課題の記入と提出 ※詳細については、別途連絡
	カリキュラム・マネジメントの重要性 ー授業改善と連動させた学校経営の展開ー	「社会に開かれた教育課程」を実現するために、カリキュラム・マネジメントの重要性について理解を深める。	・カリキュラム・マネジメントリーダーはどこから取り組むべきか ・研究授業や校内研修に教員が参加してもらうために	準備物 各所属校の学校経営計画及び学校教育自己診断や授業アンケートの分析結果
	授業実践研究計画書の作成に向けて	所属校の「校内授業実践研究」の目標設定の方法について理解する。	学校経営計画及び学校教育自己診断や授業アンケートを使って今年度の計画を立案する。	
2	協働的・計画的に授業実践研究を進めるために ー実践事例から学ぶー	効果的な授業実践研究の進め方、研究授業後の研究協議会の持ち方について理解する。	・昨年度実践した学校の事例を聞き、研究の企画運営のポイントを所属校の取組みに生かす工夫を考える。	事前課題 ・ Google フォームによる講義動画視聴と事前課題の記入と提出

	<p>各校における授業実践研究計画の改善と共有</p> <p>－授業改善のPDCAサイクル－</p>	<p>組織的な授業改善を効果的に行うために、PDCAサイクルを取り入れた授業改善・授業実践研究計画について、所属校の課題や改善すべき点を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善に関する様々な評価方法の特徴を理解する。 ・ 所属校が設定した目標に適した評価方法を選択し、持参した計画書に組み入れ、改善を図る。 	<p>※詳細については、別途連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属校の校内研修年間計画
3	<p>各校における授業実践研究の取組みの実際</p> <p>－中間報告会－</p> <p>－授業改善のCheck(評価)とAction(改善)－</p>	<p>実践交流を通して、各校における研究授業の成果と課題を認識するとともに、今後の研究授業に向けての課題、改善すべき点等を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善の実践や課題をグループで報告・交流する。 ・ 今後の所属校の校内研修の活性化に生かす工夫を考える。 	<p>事前課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者各自が所属校で校内研修を企画・運営・実施し、10月3日(月)までに実践レポートをGoogleドライブに提出する。様式等、詳細については第2回に連絡 ・ 提出された実践レポートを閲覧し、Googleスプレッドシートにコメントをする。
4	<p>各校における授業実践研究の取組みの交流</p> <p>－実践成果報告会－</p>	<p>学校のめざす姿につながるカリキュラム・マネジメントの在り方について共有し、所属校の取組みを振り返る。</p>	<p>各校の実践を報告・交流して次のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校の目標達成状況(成果と課題)を共有する。 ・ 所属校の成果と課題を再確認・整理する。 	<p>事前課題</p> <p>発表資料をGoogleドライブに提出(締切りは1月16日(月))</p> <p>様式等、詳細については第3回に連絡</p>
	<p>実践を引き継いでいくために</p> <p>－次年度に向けて－</p>	<p>授業実践研究推進リーダーとして、年間の実践を振り返り、次年度に向けての具体的な取組みについて考える。</p>	<p>授業実践研究推進リーダーとして、所属校の成果と課題を整理して、次年度の具体的な授業実践研究の行動計画を作成する。</p>	<p>事後課題</p> <p>報告書提出(締切りは2月20日(月))</p> <p>様式等、詳細については第3回に連絡</p>